特集

# 私たちの主張を伝えます！

## ー令和７年度松浦市子ども議会ー

### 住み続けたいを実感できるまちづくりをテーマに

８月１日、市議会議場において「子ども議会」を開催しました。

この議会は、中学生の皆さんに子ども議員として、「住み続けたいを実感できるまちづくり」をテーマに松浦市政を考えてもらう機会としており、10年、20年後の松浦市を担う中学生の柔軟な発想から生まれる考えを表現する場として位置付けています。

今回の経験をまちづくりへの参画のきっかけにし、今後も市政に関心を持って、自らが考えた意見を基に行動できる人に育っていただければと思います。

### 市議会と同じ形で行われた内容の一部を紹介します

子ども議会では、議事の進行を務める議長や、副議長が中学生議員の中から選ばれ、通常の市議会と同じ様に進行されました。

当日は、21人の議員が参加し、総合学習などで学んだことを意見や提案、質問として発言し、市長をはじめとする各担当課長からの答弁を受けました。

今回の特集では、議会内容の一部を紹介いたします。

松浦市の将来を担う子どもたちの活力あふれる声をぜひご一読ください。

（以下敬称略）

詳しい質問や答弁は、松浦市ホームページをご覧ください。（左記のＱＲコードを読み取ってください。）

## 鷹島の未来のために私たちにできることについて

**鷹島中学校**
**宮本　琉希、松永　悠聖、大石　華**

鷹島では、地域が発展していくために、どのようなことをすればよいか、私たちにできることはないかなど、子どもと大人が一緒になって、毎年「みらい会議」という話し合いの場を設けています。鷹島のために私たちにできることは、新たなＰＲ方法を探り、地元の良いところを発信することだと考えました。
ただ、それを実現するためには、私たち子どもだけでは難しい課題がでてきました。

---

**Q 私たちが、福岡で鷹島のＰＲ活動を行うために、移動にかかる費用を負担していただけないでしょうか。併せて、その他福岡事務所などに協力をいただき、私たちもＰＲに参加できる方法等があったら教えていただけないでしょうか。**

**A** 活動に係る費用については、学校における総合学習推進事業として計画することで費用負担が軽減できます。活動の目的などについて計画を詳しく聞かせていただきたいと思います。
福岡事務所では、福岡都市圏において開催されるさまざまなイベント、市主催のイベントを福岡市内で実施することによって、認知度向上と福岡都市圏からの誘客を図っています。
移動費用の負担など、直接的な支援を行うことは難しいと考えますが、福岡事務所を通じて、効果的なイベントの情報を提供することは可能です。

**Q 令和７年度からの「地域おこし協力隊」によるＳＮＳ等を活用した本市の魅力発信は、具体的にどのようなことをしていますか。**
**また、私たちが、ＰＲ活動を考えた場合、発信していただけますか。**

**A** 外部人材配置後は、市内各地域を巡回しながら、外からの目線で松浦の新たな魅力を収集し、ＳＮＳ等を活用して地域内外へ発信する役割を担います。
また、発見した資源と既存の資源を組み合わせた新たな観光コンテンツを企画して作り上げ、そのコンテンツの魅力も発信していきます。
皆さんの貴重なアイデアも取り入れながら、新たな目線で鷹島や松浦の魅力を発信していきたいと考えています。

**Q 鷹島の特産品を使った商品開発について多くの人が手に入れやすいものにするためには、加工した商品を開発することが必要だと考えます。そこで、私たちが、鷹島の特産品を使った商品開発をする場合、協力していただけますか。**

**A** 地元の特産品を使った商品を実際に開発するには、企業等の協力が必要なので、アイデアに応じた関連企業等をご紹介できればと考えます。
また、市内に事業所を有する中小企業者等に対して、新商品開発にかかる費用に対して支援を行っています。
特産品を活用した新商品開発は大切な取り組みで、特産品のＰＲはもとより、新規顧客の創出や生産者の所得向上、地域産業の活性化にも繋がります。
市のビジネスプランコンテストには、地域産業の活性化につながる実現可能性の高いアイデアを対象としたアイデア部門もあります。アイデアを実現する一歩として、活用できるのではないかと思います。
資金面の支援としては、「がんばる中小企業応援補助金」という制度があり、新商品の開発などに取り組む市内事業者を支援しています。

**Q 新たに開発した鷹島の特産品を使った商品について、道の駅以外に空き家の活用やネット通販、他県への出張販売等を考えた場合、松浦市として支援が可能でしょうか。**

**A** 市では、物産展への出展紹介やふるさと納税出品手続きの支援を行っています。
また、商品を認めてもらう必要があるため、意欲ある事業者に対しては、物産振興の取り組みの中で商談会や展示会を紹介しています。

## 市への訪問客を増やすための方策について

今福中学校
下村　玲鳳、田代　蒼空、青木　悠一

私たちの住む松浦市は、海と山に囲まれた自然豊かな土地であることが最大のメリットであると思います。一方、学ぶ場所を求めて市外へ出ていく人も少なくありません。

市では、まちの活性化のためにさまざまな取り組みをされており、最近では、鷹島を「水中考古学の聖地」と銘打って観光アピールをされていると伺っています。

今福町は、鷹島汽船を利用した鷹島へのルートがあります。

陸地を回って橋を渡るよりも最短ルートで島に渡ることができ、鷹島への訪問もし易いと考えます。

**Q 現在市内で行われている観光者向けの体験活動について、どのようなものがあるか、またその受け入れ先や体験料について教えてください。**

**A** 体験型旅行事業を実施している一般社団法人まつうら党交流公社のメニューの中から、船釣り、港釣り、魚さばき、アジフライ作り、田舎十割そば打ち等があります。

一般社団法人まつうら党交流公社を窓口として、主に青島地区や田代地区で受け入れを行っています。体験料は、メニューによってさまざまです。

**Q 松浦市にはいくつか島があり、それぞれに観光スポットや体験活動などがありますが、交通機関等の割引や体験料金等、島に行きやすくするための取り組みはありますか。**

**A** 現在、観光を目的として、島に行くための交通機関の割引や体験料金の割引はありませんが、まつうら党交流公社の体験料金は、市外で行われている体験メニューと比べても低料金で設定されています。

情報を発信するとともに、島でしか味わえない体験メニューを充実させ、島に来てもらえるよう取り組んでいます。

**Q 「水中考古学の聖地」としての鷹島へ訪問客を増やすために、鷹島汽船を利用した観光ルートを提案します。例えば、鷹島観光・体験スタンプラリーのようなものをつくってはどうでしょうか。**

**また、今福港に物産商業施設を建設すれば、それを求めてくる観光客も見込めるのではないでしょうか。**

**A** これまで「水中考古学の聖地」への誘客の取り組みとして、元寇（蒙古襲来）の歴史と食を活かした観光コンテンツづくりに取り組んできました。

具体的には、元寇の歴史にゆかりのある壱岐市、対馬市と松浦市が連携し、3市の特産品が当たる3市合同のデジタルスタンプラリーを開催し、1769人の参加がありました。

鷹島をはじめ、今福では梶谷城跡など、市内数か所をスポットに設定し市内の周遊観光につなげることができました。

「鷹島に行ってみたい」と思ってもらうような仕掛けづくりはまだまだ必要だと考えています。

交通機関や体験活動、商業施設との連携のアイデアも参考にしながら、引き続き情報発信や、魅力あるコンテンツづくりに取り組んでいきたいと考えています。

物産商業施設の建設については、今福町に新たな道の駅を建設することは難しいかもしれませんが、既存施設と連携して誘客促進に努めていきます。

## 室内で遊べるような大型施設について

現在松浦市には子どもたちが遊べる公園がいくつかあります。

しかし、雨風の強い日、猛暑日は、屋外での遊びはとても厳しいものがあります。

もしも、屋内で快適に遊べるような施設があれば、天候に左右されることなく、多くの人が伸び伸びと身体を動かして楽しむことができます。

**Q** **小中学生が利用できるような屋内施設の利用状況と遊具や設備を今より充実させることについての可否について教えてください。**
**難しいのであれば、屋内レジャー施設事業を取り扱う企業等を誘致するということも考えられます。市の今後の展望についてお聞かせください。**

**A** 現在、屋内施設ではありませんが、文化会館駐車場のうち、西九州自動車道の桁下を活用した、アーバンスポーツ専用スペースの整備を計画しています。
桁下を活用することによって小雨程度であれば使用可能ではないかと考えています。
現在想定している種目は、先日実施した、スポーツに関するアンケートにおいて、多くのご意見をいただいた、スケートボード、3×3バスケットボールの2種目を考えています。
また、現在、民間事業者からのご提案を受け、志佐町にある「海のふるさと館」隣接地に、全天候型の屋内遊戯施設を建設できないか検討している状況です。

## 松浦市の人口増加に関わる取り組みについて

**調川中学校**
**久保川愛菜、村田　一真、三木　幸輝**

**このまま松浦市の人口減少が進んでいくと、市全体の生産力も低下していき、私たちの住む松浦市がどんどん苦しくなっていきます。**
**私たちは、多くの松浦の魅力を知っています。**
**アジフライや数々の果物などの特産物、人を癒す力のある豊かな自然は、松浦が他の市に誇れる魅力であり財産だと思います。**
**その魅力の生かし方を考えて松浦市の人口減少を食い止める力になりたいと思っています。**

**Q** **現在、松浦市で行っている祭りのうち、①水軍まつり②鷹島モンゴルまつり③福島土谷棚田の火祭り④福島のふるさと祭りの予算額と集客数について教えてください。**

**A** お尋ねの市内で行われている祭りについては、市の主催ではなく、実行委員会等が組織され、祭りを運営されています。各実行委員会等では、市からの補助金のほか、独自に協賛金や募金を集めて予算を確保されています。
**【総事業費・集客数：令和6年度実績】**
①松浦水軍まつりの総事業費は987万8854円で、集客数は1万400人。
②鷹島モンゴルまつりの総事業費は165万7638円で、集客数は200人。
台風接近のためイベントが中止となり、集客数が少なくなっています。
参考：令和5年度は5000人。
③福島土谷棚田の火祭りの総事業費は75万3816円で、集客数は550人。
令和6年度はイルミネーション点灯のみの実施で、集客数が少なくなっています。
④福島ふるさと祭りの総事業費は341万5888円で、集客数は4000人。

**Q** **祭りを一つにまとめ、予算を大きくして芸能人を呼んだり、ビンゴの景品を松浦の特産品等で豪華にしたりして、より多くの集客が見込めないでしょうか。**

**A** 祭りを一つにして予算を大きくすることで、魅力のある祭りを実施することができるかもしれません。
祭りは、それぞれの地域で特色を生かし、歴史や食文化などを通して、地域の活性化を図るために内容を検討して実施されています。
地域の祭りとして、それぞれで開催する意義があると考えるので、市としては、今後も地域の方々の意向を尊重し、引き続き開催に向けての支援を行っていきたいと考えています。

**Q** **松浦の魅力である自然を生かした方策として不老山公園を生かした取り組みを考えています。**
**現在の不老山公園の復旧状況および再開予定について教えてください。**

**A** 令和7年3月までに不老山総合公園の子ども広場の遊具施設、トイレの洋式化等の改修、あずまや、ベンチ等の修繕を完了し

ています。現在、長崎県の地すべり対策工事、市道の復旧工事が行われている状況です。
　現時点では9月末に工事が完了する予定ということから、その後電気設備などの点検や施設等の安全性の確認を行ったあと、再開園を予定しています。

**Q 不老山公園が使用可能になったら、キャンプ場の併設、バーベキューなど、恵まれた自然を生かしてさらに集客できるような取り組みをすることは可能でしょうか。**

**A** 不老山総合公園は、市民の皆さまが無料で利用できる施設として、多目的広場、バーベキュー広場、ツツジ園等を整備しています。
　再開園した際には、元々整備しているバーベキュー広場があるので、そちらを利用することができます。現段階においては、キャンプ場を整備することは考えていません。不老山総合公園は、市内外から多くの方が訪れる誘客施設です。
　今は、安全安心にご利用いただけるよう、再開園の準備に向けて注力したいと考えています。その後については、ドッグランの整備など施設の充実を検討しています。

**Q 現在、アジフライの他にも市外へ売り出そうとしているものはありますか。**

**A** アジフライを含めた12品目を「松浦の極み」としてブランド化しており、イベントでのPRや商談会を実施し、認知度向上や販路拡大のための取り組みを行っています。
　さらに、今年度から、他の地元産品についても、商品開発、販売体制の整備など市内事業者が抱える課題を解決するためのコンサルティング事業を実施しています。このような事業を通して、アジフライに次ぐ松浦の魅力的な産品を市外に売り出していきたいと考えています。
　また、市では「アジフライの聖地」とともに「水中考古学の聖地」としての認知拡大にも取り組んでおり、元寇（蒙古襲来）の歴史を観光コンテンツ化してPRを行っています。
　松浦市の魅力を多くの方に知ってもらうため、松浦にしかない食や歴史をさまざまな形で売り出しています。

## 若年層（若者）の人口流出対策及び人口流入の取り組みについて

志佐中学校
中尾　颯希、中隈　一翔、萩原　慧

**若者の人口流出は松浦のどの地域でも目立っています。志佐中学校では、現在行われている人口流出対策に着目しました。
　人口流出対策は活気あふれる松浦市を存続させていくためにも喫緊の課題であると考えます。質疑応答を繰り返す中で私たちなりにこういったことが実現できれば、若者が「住み続けたい」と実感できる松浦」になっていくのではないかと考えました。**

**Q 進学できる幅が広がると、将来的に松浦に残ろうとする人が多くなると思います。
　松浦の良さである海洋資源や自然を生かし、魚などを研究する大学の研究所を設置したり、各大学の研究機関に魅力ある地域資源をPRしたりして誘致活動を行い、各関係機関と関係づくりを進めていくのはどうでしょうか。**

**A** 市では、地域への理解と愛着を育むことが、将来的に松浦に残ろうとする人を育てていくことになると考え取り組みを進めています。
　松浦高校では、生徒が地域課題について調査・考察し解決策を考える「まつナビ」という教育活動があり、ふるさとを大切に思い、その発展に貢献してもらうことにつながっています。
　また、昨年度、松浦高校は、日本遠洋旋網漁業協同組合（エンマキ）と東京大学農学部国際水産開発学研究室の学生と交流しました。今年度は、慶応大学や明治大学の学生との交流を予定するなど、都市部の大学との交流も、松浦市内の高校にいながら行う機会があります。
　さらに多くの地域資源のPRを行

い、活用を図っていくことで、さまざまな機関と連携し、松浦で多種多様な学びを得る機会を広げていきたいです。

研究機関の誘致という点では、現在「鷹島神崎遺跡」について、水中遺跡保護に関する研究を行うため、専門調査研究機関を松浦市に設置するよう働きかけを行っています。

**Q 松浦市の創業支援制度を知らない人も多いと思います。SNSや企業との連携、地元メディアなどのさまざまな方法および松浦市観光大使の岩佐一成さんなど有名人とコラボレーションを積極的に図り、就業面でのPRを活性化してはいくのはどうでしょうか。**

**A** 創業前や創業直後の場合、多岐にわたる悩みを抱えられているケースが多く見受けられます。

市では、商工会議所や商工会、金融機関などの関係機関と連携した上で、創業に関する幅広い相談への対応や段階に応じた支援として創業塾などを開催しており、その成果として、令和6年度は、11人の方の創業に繋がりました。

他の自治体にない市の魅力について、市民の皆さまにはもちろんのこと、広域的かつ効果的に情報を発信することは大変重要なことであると考えます。

有名人とのコラボレーションによる情報発信というのも、一つの手段であり、そのようなアイデアを含め、より効果的な情報発信の方法について検討していきます。

**Q ふるさと教育では、地域の魅力を調べ、発表するだけに終わっており、行動に移せていません。現地に赴いて実際に体験活動を実施するなど、ふるさと教育の中に今までより多く体験活動を取り入れるのはどうでしょうか。**

**A** ふるさと教育に体験活動を取り入れることは、ふるさとをより深く知り、郷土愛を育むためにとても有効です。

松浦市教育委員会では、「松浦市教育振興基本計画」で、ふるさと教育の充実について示しています。

各小中学校においては、総合的な学習の時間、社会科、特別活動、生活科などで体験活動に取り組んでいます。

今後も、地域ぐるみで展開するふるさと教育、体験活動を充実させ、ふるさとへの誇りや郷土愛を育むとともに、ふるさと松浦を主体的に支える人材の育成に努めていきます。

**Q 松浦の魅力である山村資源や海洋資源の豊かさを生かし、農業・漁業体験と一体となった滞在型の観光（グリーンツーリズム）を展開することで、外部の方々から松浦の自然の魅力に気付いてもらえる機会となると考えます。**

**松浦の一種のアクティビティとなり、移住者の拡大を狙えるのではないでしょうか。**

**A** 松浦市では、農漁村での体験や民泊を通じて、県外から訪れる方々に地域の魅力と人の繋がりを伝える体験型旅行事業が行われています。

この事業は「一般社団法人まつうら党交流公社」が運営しています。松浦を体験し、松浦を知ってもらうこの取り組みは、移住者の拡大につながる有効な手立てであると考えます。

継続した活動の実施と、魅力的な事業提供につながる支援を実施していき、こういう取り組みを通じて、移住定住の促進につなげていきたいです。

## 定期船欠航時の対応について

青島中学校
上場汐央里、桝屋晶華莉、川上　杏莉

定期船欠航時に困っている現状が2つあります。

一つは、欠航時の医師の診療、常用薬の処方ができないことです。定期船が欠航する可能性を考えると、青島では健康に生活できる暮らしが保障されていないと感じます。

もう一つは、災害時や緊急時の対応についてです。昨年度、台風で避難所が開設されたとき、市役所の人が青島に来られるということはありませんでした。

この現状を踏まえると、災害時や緊急時に関係機関から早急な支援を受けられるのか不安です。

**Q 定期船欠航時の医療に関する対応と、災害時や緊急時の対応について具体的に教えてください。**
**また、松浦中央病院で夜間の救急搬送の受け入れが可能になったことによる、救急患者の搬送が可能な交通船の導入計画は現在どうなっていますか。**

**A** 定期船欠航時における救急等の緊急時は、地域の皆さまのご協力により、昼夜間を問わず交通船や漁船にて御厨港まで搬送、そこから救急隊が引き継ぎ、医療機関へ搬送しています。
また、漁船以外にもドクターヘリを要請し救急患者を搬送しています。火災や災害時等の初動については、地元消防団が対応しますが、規模や状況により、消防本部および消防団から必要な人員と資器材を派遣して対応することとしています。
避難所については、市職員を配置した公設避難所を市内8か所に開設しており、早めに公設避難所への避難をお願いしたいと考えています。
定期船欠航等で公設避難所への避難が困難な場合は、青島住民センターと青島小中学校を指定避難所として指定しています。住民の方はそちらに自主避難をお願いしたいと考えています。
欠航による青島診療所の休診については、令和7年1月の終わりから2月初めにかけて3回発生し、祝日による休診も加わったため、島民の方から薬が不足した等のご連絡をいただきました。
欠航による医薬品の不足の問題については、青島に限らず飛島や黒島含め、欠航しやすい時期には早めの受診、欠航していない時の本土の病院受診を心がけていただくことが大切なのではないかと考えています。
交通船の導入計画については、現在、交通船の規模や能力、対応できる造船会社など、必要な情報を共有しながら、青島地区役員および交通船関係者との協議を進めています。

**Q 「新スマート物流事業終了のご案内」が配布され「引き続きこの事業で得た離島への配送モデル、離島への配送ルートなどを活用する手法を検討していきたい」と書いてありました。**
**今後の具体的な見通しと進捗状況を教えてください。**

**A** ドローンを活用した配送については、現段階で、採算性のとれる事業継続は難しいとの判断に至りました。ドローン配送を実施していくためには、機体の飛行距離、積載量、天候に左右されずに飛ぶ性能等技術の進歩や、新しい社会インフラの整備等が進むことで、実現に近づいていくものと考えています。
4月末以降、近隣のドローン事業者、ドローンによる物流事業を実施したいと考えている事業者等の取り組みを聞き、意見交換を実施しました。
また、ドローン活用の最新情報、ドローン関係の法規制等について学ぶ職員向け研修会も開催しました。
ドローン活用における人材の育成、長崎県が進めているオンライン診療での医薬品配送の進展を見据えながら、速やかに導入できるよう、引き続き検討していきます。

**Q ドローンの試運転がなされて以降、島民の方々は「暮らしやすくなる」ととても楽しみに待たれています。**
**青島の地域住民センターを活用し、オンライン診療を受けられるようにしたり、ドローンを活用して薬や食料品、日用品などの物資を届けられるようにしたりできる体制をつくるのはどうでしょうか。**

**A** オンライン診療については、青島住民センターに器材を設置して実施できないかと考えています。市内において、現在、オンライン診療を実施している医療機関がなく、また、サポート人材の確保などの問題があります。
また、オンライン診療は、青島に限らず飛島や黒島もその対象にしなければならないと考えています。
長崎県全体の動きとしては、五島、壱岐、対馬の公立診療所を対象としたオンライン診療や巡回診療車の導入等に関する協議会を設置する予定と聞いています。
この協議会の設置後の内容や、オンライン診療の先進地についての情報を収集しながら、市の離島におけるオンライン診療の早期実現に向けて取り組んでいきます。
ドローン技術は近年、目覚ましい進歩を遂げており、さまざまな分野での活用が広がっています。機体の飛行距離、積載量、天候に左右されずに飛ぶ性能等技術の進歩を確認しながら、オンライン診療等での活用について、引き続き検討していきます。

## 明るく楽しい松浦市の実現に向けて

御厨中学校
前田　悠貴、内野　真優

私たちは、本議会のテーマである「住み続けたい町づくり」について考えました。どんな松浦市であってほしいか、若者である私たち学生だけでなく、松浦市に住む一人一人がどんな町に住みたいと感じているのかを考えました。

若者にとって魅力的な環境づくり、高齢化が進む中での医療・福祉サービスの充実、また、コミュニティーの活性化などが大切だと感じました。

**Q　過去10年間の松浦市における人口減少の推移、現状について、具体的に教えてください。**

**A**　国勢調査において、市の人口は、10年前の2015年は、2万3309人。5年前の2020年は、2万1271人。10年前と5年前を比較すると5年間で2038人の減。年間平均で約400人が減少している状況です。

なお、国勢調査は5年ごとに実施され、今年が実施の年であり、10月に実施予定です。

**Q　今現在、松浦市として人口減少に対してどのような取り組みをしていますか。**
**また、取り組みの中で一番効果があるのではないかと感じられるものは何ですか。**

**A**　市では、人口減少に歯止めをかけ、持続可能な社会の実現にむけて「松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、さまざまな取り組みを進めてきました。

その中で、年間交流人口数の増、一人あたりの観光消費額の伸びなどは目標以上の成果を得ており、これは、「アジフライの聖地」の取り組みによる効果であると認識しています。

生産活動の結果生じる雇用者所得は、消費支出として新たな需要を生み出し、さらなる生産の誘発、雇用創出を生み、人口減少対策として効果があるものと考えられます。

また、働く場の確保という点で、地場企業の投資拡大と新しい企業の誘致のため、御厨町大崎地域に工業団地を造成しています。

**Q　人口が減少している松浦市において、現在住んでいる人とそうでない人、どちらも対象にしたイベントが必要だと考えます。**
**自然豊かな松浦市を生かしたイベント、例えば、松浦マーケットが実施しているビーチクリーンイベントの拡大、特産物などの出店、食べながら歩くウォークラリーを開催することはどうですか。**

**A**　市では、人口減少対策の一つとして、交流人口の拡大に向けた施策に取り組んでいます。ご提案のイベントについては、交流人口の拡大に大変効果のあるものではないかと考えます。

松浦マーケットのビーチクリーンは、ボランティア活動として毎月第1日曜日に市内の海水浴場の清掃を実施されています。

市では、伊万里湾環境保全対策協議会の活動の一つである伊万里湾一斉清掃活動を毎年実施しています。

令和5年度は、NIBとの共同開催により、大崎海水浴場でスポGOMI（スポゴミ）、令和6年度はぎぎが浜海水浴場で実施、今年度も市内の海岸で予定しています。

来年度は、同協議会構成市合同での清掃イベントを市内の海岸で予定しており、出店についても検討しています。

福島町には、韓国済州島発祥のトレッキングであるオルレのコースを設定しており、このコースを活用したイベントを年に2回開催しています。

コース途中に松浦の食材を使用した軽食や郷土料理の提供、特産品の販売をしています。美しい眺望や食を楽しみながら、松浦の自然を満喫できるイベントは、市内外から多くの方が参加されます。

引き続き、情報発信に努め、住んでいる人にもそうでない人にもどちらも参加していただけるよう取り組んでいきます。

**Q 若者からお年寄りまでみんながつながることで、町全体が明るく、温かくなると思います。**
**小学生・中学生などが参加する学習会や、お年寄りの方でも参加できるニュースポーツを使ったイベントができたらと考えます。**

**A** 松浦市総合計画に基づき、小学校区単位の協働によるまちづくりを進めています。
御厨地域では「御厨地域まちづくり運営協議会『よかまち みくりや』」が設立されました。
3世代で交流できる場所として、うみのかぜ公園の有効活用（各種イベント等）が挙げられており、先日の「松浦港緑地（うみのかぜ公園）完成記念事業」では、イベントを共催し、中学生や高校生と一緒にブース出展等が行われました。
今後も、各地域のまちづくり運営協議会の取り組みに、世代を超えて多くの皆さまに参画していただきたいです。

## 福島町の建物や公衆トイレについて

**福島中学校**
**渡邊　果歩、脇山　那菜、末安陽奈乃**

現在、松浦市全体の人口は減少傾向にあります。
私たちは、福島町がもっと住みやすい町になれば、福島町に人を呼び込んだり、仕事がうまれたりして地元が活性化し、松浦市全体の活性化になると考えます。
特に公衆トイレは、私たちもきれいに使うよう努力はしていますが、なかなかきれいになったり、使いやすくなったりしていないと感じます。
支所や消防などの公共施設についても老朽化が進んでいると感じます。

**Q 福島の支所や消防などの公共施設、ふれあい広場や日の浦のグラウンドにある公衆トイレが老朽化しています。そのような建物の整備や施設の修繕の目途はたっていますか。**

**A** 市役所福島支所、福島公民館、消防署福島出張所の3施設を一緒にした福島地域複合機能庁舎の建設を計画しています。
現在、福島小学校跡地に庁舎を建設する準備のための地形測量調査を行っており、今年度中には地質調査と建物を設計する業務に取り掛かり、それらが終わった後に建築工事を着工し、令和10年度末までに完成させることを目指しています。
ふれあい広場のトイレについては快適に利用いただけるよう状況を確認しながら、引き続き維持に努めていきます。日の浦グラウンドの公衆トイレについては、県の所有なので、改善できるように県にお伝えしていきます。
前回の子ども議会後、当時の福島中学校生徒会にトイレ利用のマナーポスターを作成いただき、公共のトイレに貼っていただきました。ご協力いただいた生徒会に感謝します。

**Q 福島町唯一のスーパーであったAコープもなくなってしまい、農産物販売は行ってもらっているものの不便です。今後福島町に、スーパーが建設されることはありますか。**
**また、福島診療所に、今後、小児科や入院施設等施設設備を充実させていく予定がありますか。**

**A** Aコープ閉店後の空き店舗の利用や、その他の場所におけるスーパーなどの施設建設という動きは把握できていません。
現在、市では、共に考え、学び、行動していく「小学校区を対象とした協働によるまちづくり」を進めており、福島地域においても本年6月29日に「福島地域まちづくり運営協議会」が設立されました。
生活用品等の買い物ができる店が少ないという課題が挙げられており、解決に向け、若者の出店支援を行っていくということを取り組みの一つに掲げられています。
市としても、地域住民が一体となって取り組める環境づくりについて、引き続き支援していきたいと考えています。
小児科については、専門ではありませんが、けがの対応やワクチンの

接種などを行っています。
入院については、現在できない状況です。近年、人口減少に伴う患者の減により大規模医療機関であっても閉院が相次ぎ、医師や看護師も不足するなどの医療機関も経営が厳しい状況にある中で、小児科の設置、高度医療や入院への対応は困難な状況です。
福島診療所は福島地域皆さまの「かかりつけ医」として、地域の医療を担うとともに、必要に応じて専門的な医療機関への紹介等を行っています。
また、福島診療所では、介護が必要な方を対象に、運動機能向上と自立した生活をおくることを目的としたリハビリテーションや認知症で自宅での生活が困難な方の共同生活の場も提供しています。
今後とも、医療と介護の両面で福島地域皆さまのお役に立ちたいと思っています。

## 松浦市の教育設備について

松浦市の子どもたちが将来の松浦市を担うためにも、より良い教育がより良い松浦の未来につながると考えます。

**Q** **福島中学校の電子黒板用パソコンの調子が悪いです。設備の修繕等はどのように計画・実施をされていますか。また、松浦市のパソコン担当の方に先生・生徒対象に話をしていただき、松浦市全体で知見を広めるという活動はどうでしょうか。**

**A** 「第3期松浦市教育振興基本計画」に沿って、学校のICT環境の整備事業を実施しています。多くの機器で修繕不能や故障が出ていることから、来年度までに電子黒板の不足分を補充したり、電子黒板用のノートパソコンや児童生徒用のタブレットを新しい機器と入れ替えたりするよう計画しています。
ICT機器に関する知見を深める活動にも是非協力したいと思います。どのようなことを知りたいのか学びたいのか教えていただき対応していきたいです。

# ふるさと松浦のまちづくりをともに考える決議

**福島中学校**
**渡邊　果歩　議員**

この度、私たちは、「松浦市子ども議会」に参会し、改めて自分たちが住んでいる地域や松浦市全体のことを考える機会を得ました。
質問は、各校それぞれが話し合いを重ねた上で決めた内容で、人口減少対策や観光資源の有効活用および新たなPRなどの地域活性化から、施設設備の充実、医療サービス、災害時対応等の社会資本の整備など広い範囲におよびました。どれも私たちの生活に密着していることばかりで、改めて松浦市の課題に気づくとともに魅力について振り返ることができました。
松浦市は、自然が豊かで歴史や伝統のある、素晴らしい私たちのふるさとです。
私たちは、今回の貴重な体験を生かし、まちづくりを人ごととせず、将来のまちづくりの担い手として、これからのまちづくりについて仲間とともに考え、皆さまとともに、ふるさと松浦を創るために取り組んでいきたいと思います。

令和7年8月1日

松浦市子ども議会

# 子ども議会を終えて



福島中学校
**松下　あんり　議長**

軽い気持ちで引き受けた議長という仕事。議会当日実際に議長席につくと、引き受けた仕事の責任の大きさや難しさに圧倒され、頭が真っ白になりその場から逃げ出したい気持ちになりました。それでも事務局の方々のサポートを受けながら、時々言葉に詰まることもありましたが、議会をスムーズに進めることだけを考え最後までやり抜くことができ、閉会の後は全身の力が抜けてしまいました。最後までやり遂げることの大切さを学ぶことができ、とてもいい経験になりました。

また、各中学校から出たいろいろな議題に触れながら、松浦市が取り組んでいること、抱えている課題等を学ぶことができ、普段何気なく過ごしてきた松浦市に対し新たな考えをもつことができました。

これからもっと松浦市を知り、自分達に何ができるかを考え実践していければと思います。そして松浦市が住み続けたい・戻ってきたいまちに、なることを心から願っています。



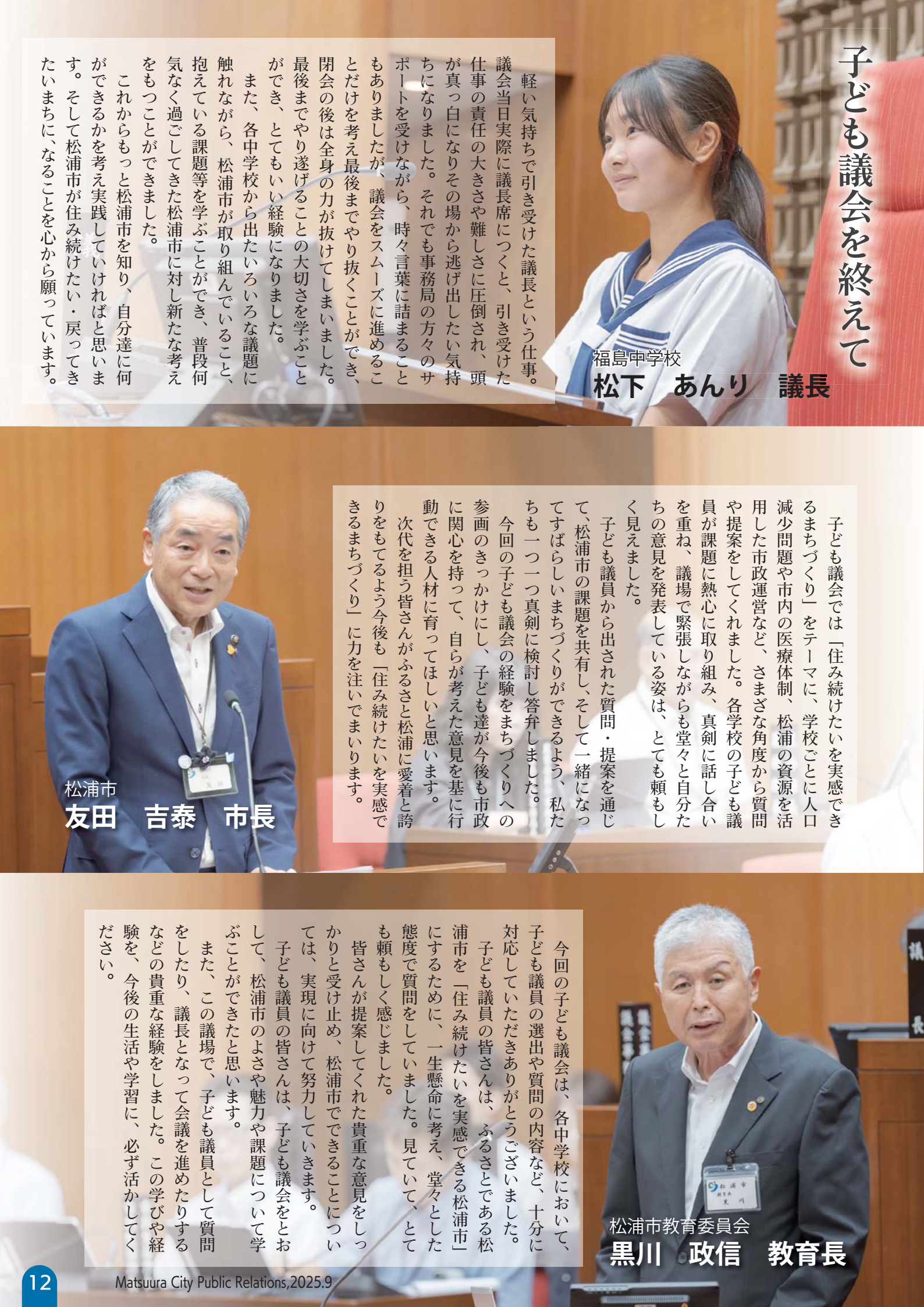
松浦市
**友田　吉泰　市長**

子ども議会では「住み続けたいを実感できるまちづくり」をテーマに、学校ごとに人口減少問題や市内の医療体制、松浦の資源を活用した市政運営など、さまざまな角度から質問や提案をしてくれました。各学校の子ども議員が課題に熱心に取り組み、真剣に話し合いを重ね、議場で緊張しながらも堂々と自分たちの意見を発表している姿は、とても頼もしく見えました。

子ども議員から出された質問・提案を通じて、松浦市の課題を共有し、そして一緒になってすばらしいまちづくりができるよう、私たちも一つ一つ真剣に検討し答弁しました。

今回の子ども議会の経験をまちづくりへの参画のきっかけにし、子ども達が今後も市政に関心を持って、自らが考えた意見を基に行動できる人材に育ってほしいと思います。

次代を担う皆さんがふるさと松浦に愛着と誇りをもてるよう今後も「住み続けたいを実感できるまちづくり」に力を注いでまいります。



松浦市教育委員会
**黒川　政信　教育長**

今回の子ども議会は、各中学校において、子ども議員の選出や質問の内容など、十分に対応していただきありがとうございました。

子ども議員の皆さんは、ふるさとである松浦市を「住み続けたいを実感できる松浦市」にするために、一生懸命に考え、堂々とした態度で質問をしていました。見ていて、とても頼もしく感じました。

皆さんが提案してくれた貴重な意見をしっかりと受け止め、松浦市でできることについては、実現に向けて努力していきます。

子ども議員の皆さんは、子ども議会をとおして、松浦市のよさや魅力や課題について学ぶことができたと思います。

また、この議場で、子ども議員として質問をしたり、議長となって会議を進めたりするなどの貴重な経験をしました。この学びや経験を、今後の生活や学習に、必ず活かしてください。